

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

「イメージ」の誤解をなくすには

横浜山手中華学校中学部 3年 牟^む 星^{せい}田^{てん}

「百聞は一見に如かず」とはよく聞くことわざです。「人から百回話を聞いたとしても、一回自分の目で見て確かめたことには及ばない」という意味です。

私は小学生の頃に中国から日本にきました。その影響で、私はよく日中両方のメディアや SNS に注目しています。色々な記事やニュースのコメント欄を見ているうちに、私は「イメージ」の重要性に気づきました。

「イメージ」とは、ある物事について人々が抱く全体的な感じのこと、心の中に思い描くもののことです。

私が日本の SNS で見た日本人が中国に対するイメージは大抵「キタナイ」、「製品は安いけど質が悪い」、「安全管理ができていない」などです。でも、悪いものばかりではありません。中には、「以前から色々なニュースで中国の悪いイメージにつながる内容が、私が実際行った時はそれほど悪いイメージではありませんでした。」と言う回答です。私はこの回答に賛成です。

なぜなら、私の知っている中国と日本のメディアが報道している中国は全然ちがうからです。

私は、同じように、中国の SNS で中国人が日本にもつイメージを調べてみました。すると、答えは、「アニメ以外特徴がない」「人に同情する気持ちがゼロ」などの悪いイメージの書き込みの比重が大きいと分かりました。でも実際、私は日本に来て、教育を受け、生活してみると、見知らぬおばあさんから善意を受けたり、日本独特の伝統文化「能」や「座禅」を体験してすばらしさを知ったり、中国メディアが掲げるイメージとは全く異なるのです。

では、こうした誤解はどこから生まれたのでしょうか？

それは、私たちが生活する中でよく聞く、「みんなそう言っていたから」「ネットにそう書いてあったから」という根拠のない思いこみからなのではないのでしょうか。SNS などの他人からの一言で悪いイメージができ上がり、それをまた無責任に他人に伝えてしまっているのです。こうしたことをくりかえすことで、根拠のないイメージが定着するのでしょうか。それはとても残念なことです。私たちには日中両方の一部しか見えてないという前提に立つべきです。自分の目で見えない部分がまだたくさんあるという想像力を働かせることが大事なのです。

実は、「百聞は一見に如かず」と言うことわざの後は、まだ「百見は一考に如かず」と続きがあるのです。数多く「見る」だけではなく、自分で「考え」なければいけないという意味です。

私たちは今、誰か知らない他人が書きこんだ情報や言葉をそのままコピーするように脳内に入れてしまいます。その情報の真偽を確かめもせず、自分では何も考えないまま、悪い情報を拡散させ、誤解を広めてしまうこともあります。私たちが今必要としているのは、行動する前に「もしかして、この情報、このイメージはうそなのではないのか？誰かの無責任な偏見なのではないのか？」と、一度疑うことだと思います。

「イメージ」とは人の考え方に大きく影響を及ぼすものだと思います。そのうえ、イメージは簡単に消えないし、簡単に変えられるものではありません。

私たちが生きる今の社会では、簡単に色々な情報が入り、私たちの知らないうちに「イメージ」が頭の中でできてしまいます。

だからこそ、何でも自分で体験し、自分で物事を学ぶことが大切です。自分で体験すれば、その「イメージ」はただの参考資料になり、私たちは自分自身の観点や自分ならではの「イメージ」を育てることができるでしょう。

中国でも日本でも生活した事がある私だからこそ、イメージに惑わされている人に、事実に基づいた情報を伝え、誤解をなくせるような人になりたいです。